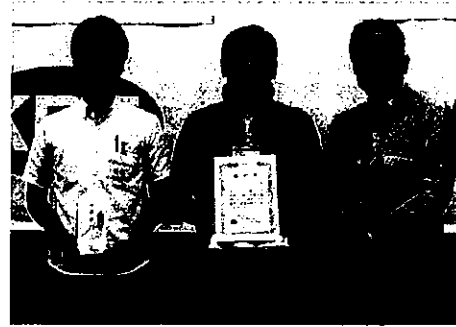


川崎陸送

QCサークル代表発表大会で「TEAM634」が1位に

7つの燃費向上策について重要課題を抽出、対策を立案・実施



「TEAM634」と樋口社長(右)

位に武蔵村山営業所の「TEAM634」(燃費の向上)総集編(課題の集大成)、第2位に

川崎陸送(本社・東京都港区、樋口恵一社長)は18日、「第44回KRT-QCサークル代表発表大会」を開催した。予選を勝ち抜いた10サークルがテーマを発表し、第1

「TEAM634」では、これまで取り組んできた7つの燃費向上策(①高速道路1400/rpmを超えない②1200/rpm以内にシフトアップ③発進時ノーマルセル1転がりスタート④アイドリングストップ⑤時速50km/hを超えたら7速で運行⑥先の信号を見てアクセルを調整⑦排気ブレーキを切り惰性運転)について再評価し、「できていない指数」が高い重



山口営業所の藤川氏と樋口社長(右)

ユース」は、飲料製品の端数出荷(ケース単位の出荷)で、出荷関連帳票を改良し、生産性の向上を実現。「関門海橋」は昨年の停電時の経験から、非常用電源の接続時のロスの解消に取

要課題を抽出。具体的な対策を立案・実施し、4年前と比べ車両5台合計で年間の消費燃料1万1517リットル、燃料費約130万円の削減を実現した。「MIJ

り組み、配線の整理やマニュアルの作成などを実施した。なお、発表大会では幸和運輸(本社・埼玉県坂戸市、中村浩社長)の「配車収支改善」の取り組みが発表され、全体の3割を占める小口顧客向けに使用していた軽車両の一部をハイエースに切り替えたことによる赤字縮小効果が報告された。

講評を行った坂技術士事務所の坂直登氏は、路線便における原価削減の取り組みと関連し、「倉庫はトラック(運送の取扱い)で利益を出す必要がある」として路線便の実勢運賃の把握の重要性を強調。日本科学技術連盟の阿部保氏は「QCは現場管理の改善であり、現場の汗と人情がないとダメ。QCに取り組むことの嬉しさは、どうしたら職場が良くなるかを自分で考えるようになることだ」と語った。